

平成26年度

## 学校評価(プラン)

育てたい生徒像

- 1 知・徳・体の調和のとれた感性豊かで至誠の心を持つ生徒
- 2 人権を尊重し、民主的かつ協和の精神に富んだたくましい生徒
- 3 勤労と責任を重んじ、自主的・自立的に行動できる生徒
- 4 自己のあり方や生き方について考える生徒

徳島県立小松島西高等学校勝浦校

総括評価表

重点課題 1  
「わかる授業の展開と確かな学力の定着」

重点目標	自己評価				学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定	総合評価		
(全体レベル) 基礎的・基本的な知識・技術を習得させるため、指導方法の工夫・改善を行い、生徒の学力の定着と向上を図る。 (下位組織レベル) ①基礎学力の向上 ②指導技術の向上と評価方法の工夫・改善 ③授業時間の確保	<u>評価指標</u> ①-1 授業の取組に関するアンケートを実施し、生徒の自己評価 80%以上を目標とする。 ①-2 2学期末において、成績不良科目を保持している生徒数が全体の 15%未満を目標とする。 ①-3 長期休業中における課題(5教科)の提出率 100%を目標とする。 ②-1 教員相互の授業見学会(仮称)を学期に1回実施し、指導力の向上をはかる。 ②-2 シラバスにおける評価基準(評価方法)を検討し、評価方法の改善を目指す。 ③ 年間授業実施率 80%以上を目指す。			評定 (所見)		
	<u>活動計画</u> ①-1 月末にアンケートを実施して集計結果を各クラスに表示し、生徒の授業に対する意識や学習意欲が向上するよう情報発信を行う。 ①-2 2学期末で成績不良者が減少するよう、中間考査終了後に成績不良者を対象に集会を実施する。 ②-1 授業見学会後に職員によるアンケートを実施し、職員の指導力及び授業の質の向上につながっているか、検討する。 ②-2 各科目におけるシラバスにおいて、評価基準を作成し、ホームページ等で公開する。 ③ 学校行事の見直しを行い、日程の調整等を徹底し、振替え補充授業を確実に実施する。	<u>活動計画の実施状況</u>	<u>成果と課題</u>	<u>学校関係者の意見</u>		

総括評価表

重点課題 2  
「豊かな人間性の育成と人権教育の推進」

重点目標	自己評価				学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定	総合評価		
(全体レベル)  一人一人を大切にし、互いに思いやり尊重する態度を育てるとともに、生命や人権を大切にしたい意欲を培い実践力を身につける。  (下位組織レベル)	評価指標 ①-1 人権学習ホームルーム活動満足度 80%をめざす。 ①-2 いじめ等に関するアンケートを学期に1回実施し、実態を把握し防止に努める。 ①-3 全学年で道徳教育のホームルーム活動を計画的に行う。 ②教職員研修対象の研修会参加率を90%以上をめざす。また、その充実感や満足度を80%以上にする。	評価指標による達成度	評定	総合評価 評定 (所見)		
	①人権が尊重される学習活動づくり  ②教職員研修の充実	活動計画 ①-1 人権学習ホームルーム活動を行うにあたっては、人権教育課が学年に応じた資料を提示する。 ①-2 いじめなどに関するアンケートを実施し、実態把握に努め、適切な対応を行う。 ①-3 道徳教育のホームルーム活動を実施する際には全学年の統一の指導案を作成する。 ②-1 校外の研修会には、教職員が少なくとも年間1回以上参加するようにする。 ②-2 校内の研修会を年間2回以上実施する。 ②-3 特別支援教育の理解を深めるために、年間1回以上研修会を実施する。 ②-4 特別支援関係機関との連携・相談をはかり、ケース会議を年間2回以上実施する。	活動計画の実施状況	成果と課題	学校関係者の意見	

総括評価表

重点課題 3

「キャリア教育の推進と進路希望の実現」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価		
(全体レベル)  望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力と態度を育てる。  (下位組織レベル)	評価指標 ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 95%以上をめざす。 ①-2 「勝浦塾」就業体験学習自己評価肯定率 80%以上, 参加率 50%以上をめざす。 ② 総求人数 250人以上をめざし, 60社以上企業訪問を実施する。 ③ 取得資格数 1年生対象に実施する刈払機取扱作業教育の資格取得率 80%以上をめざす。 2年生, 3年生対象に実施する農業技術検定3級の合格率 70%以上をめざす。		総合評価 評定 (所見)		
	活動計画 ①-1 夏休み中に「勝浦塾」就業体験学習をおこない, 受入事業所から評価と助言をもらう。9月に「勝浦塾」報告会を実施する。 ①-2 職業理解・職業体験のため分野別の職業ガイダンスを学期に1回実施する。 ②-1 進路指導課・3年学年団を中心に5, 6月に企業を訪問し, 新規企業の訪問を20%以上増やす。 ②-2 ホームルーム活動, 授業等を通じての進路指導を年3回以上おこなう。 ③-1 関係機関と連携し, 各種検定や資格を積極的に取得することができるように情報提供を行う。 ③-2 農業技術検定の合格率を向上させるための取組(補習)を実施する。	活動計画の実施状況	成果と課題	学校関係者の意見	

総括評価表

重点課題 4

「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」

重点目標	自己評価				学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価		
(全体レベル)  愛情と信頼に満ちた人間関係を構築し、社会の一員としての責任と義務を自覚させるとともに、自律心を養い規範意識を醸成する。  (下位組織レベル) ①頭髪・服装指導の徹底 ②基本的生活習慣の育成 ③交通事故の防止と通学マナーの向上	評価指標 ①年間5回以上全校集会を実施し、頭髪・服装指導や特別指導防止に向けた生徒指導面での改善を図る。 ②遅刻・無断欠席改善指導については、前年度から10%の削減を目指す。段階に応じて保護者面談等を実施する。		評定 (所見)			
	③校内、校外における交通安全講習会を年1回以上、運転技能向上講習会を年1回以上開催する。					
	活動計画 ①各学期の節目に全校集会を行い、HR、学年、学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら、効率的で公平な指導を行う。 ②-1 朝のあいさつ運動や、日々の学校生活全般、農業教育をとおして生徒、保護者、教員間のコミュニケーションを密にし、生徒の基本的生活習慣の育成を行う。 ②-2 月10回以上の生徒を対象に、学校全体で遅刻改善指導を実施する。 ③-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い、バス会社や地域、家庭と連携した指導を実施する。 ③-2 駐輪場の整理・整頓、年度当初の車体検査、校内外の交通安全教室を実施し、交通規範意識の向上を図る。 ③-3 全てのバイク通学生徒は年1回以上2輪車実技安全講習を実施し、運転技能向上と、交通安全の規範意識を高める。	活動計画の実施状況	成果と課題	学校関係者の意見		

総括評価

重点課題 5  
「特別活動の活性化と環境教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル)  創造的な活動を通して集団、社会の一員としての自覚を深め、よりよい生活、環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。  (下位組織レベル) ①生徒会活動・HR活動の活性化 ②部活動の充実・活性化 ③環境・エネルギー教育の充実	評価指標 ①-1 生徒の特別活動満足度 80 %をめざす。 ①-2 朝のあいさつ運動を毎日(テスト時を除く)し、平均参加者数 8 名をめざす。 ①-3 農業祭における来場者数 200 名をめざす。 ①-4 クラス別・学年別集会を 5 回以上実施する。 ①-5 生徒会行事の度に学校 HP に掲載し、情報発信に努める。 ② 部活動加入率 70 %をめざす。(1 年生は全員加入のため) ③ ゴミ箱の設置方法を工夫し、ゴミの分別の徹底を図る。	評価指標による達成度	評定 総合評価 評定 (所見)		
	活動計画 ①-1 本校の伝統となっている挨拶運動を引き続き実施する。参加者を増やすために、生徒会や生活委員会に強く呼びかけると共に、有志を募る活動を行う。 ①-2 生徒による新しい活動の企画・運営が図れるよう指導する。 ①-3 学校行事への主体的な参画が図れるよう指導する。 ②-1 自然科学部は、農業の授業とも絡ませ、より地域に出て行きやすくするために、全員参加の部活動の形態を取らせる。 ②-2 本校との合同練習を盛んにすると共に、地域の中学校に働きかけ、希望者を増やす活動を行う。 ②-2 部活動顧問会議を学期に 1 回開き、意見交換を行う。 ②-3 管理職への報告・連絡・相談の徹底を図る。 ③ 毎日の清掃時には職員を配置し、ゴミの分別を徹底させる。	活動計画の実施状況	成果と課題	学校関係者の意見	

総括評価表

重点課題 6

「学校の活性化，産業教育の振興と新しい学校づくり」

重点目標	自己評価			学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価（評定）	
(全体レベル) 基礎・基本の定着を図りこ 教育を創造し，地域に根ざ した活力と魅力ある学校づ くりを推進する。 (下位組織レベル)	<u>評価指標</u> ①校外実習活動，交流学习の実施数を年間 10回以上行う。	<u>評価指標による達成度</u>	<u>評定</u>	<u>総合評価</u> (所見)	
	②年間を通して野菜・果樹・草花等を中心 に農産物の生産と販売を行う。				
	③ホームページの更新を月平均5回以上行 う。				
①本校教育の地域への還元 ②農場経営の活性化 ③広報活動の充実	<u>活動計画</u>	<u>活動計画の実施状況</u>	<u>成果と課題</u>	<u>学校関係者の意見</u>	
	①-1 地元小・中学校・特別支援学校等で 土作りから栽培管理について農業支援を 行い交流を深める。(3回以上)				
	①-2 地元の病院や介護福祉施設へ出向き， 花壇作り等環境整備を行う。(3回以上)				
	①-3 ジンリョウユリやリンドウ等希少植 物の苗の提供，植え付け，観察等増殖活 動を行う。(6回以上)				
	①-4 棚田での田植え，稲刈り等保全活動 を行う。				
	②-1 地元期待されている草花や野菜等 魅力ある農産物の生産を心掛ける。				
	②-2 地元の農産物販売所「よってネ市」 で野菜・果樹・草花等の農産物をあわせ て年間6品目以上販売する。				
	③-1 ホームページの内容を見直し新しい データに更新する。				
③-2 学校と保護者の連携を図るため各イ ベントに応じて情報の発信を行い説明責 任を果たす。					